

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドサポートみやこ	公表日	令和8年4月1日
------	--------------	-----	----------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	2	・利用児童の持ち物のサイズが大きく、持ち物が多い児童もいるので、児童の休む配置を変えながらスペースの確保をしている ・児童の荷物をカラーボックス等を使用し、児童の環境整備を行っている	・児童の成長と共に、スペースが狭くなってくることが予測されるので、常に環境設定や物品の整理整頓を行う。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10	2	・基準の人員配置は満たしているが、児童の状態では人員が足りないと感じる日がある	・児童の精神状態ではマンツーマン対応になる時があり、基準人員の数は満たしているが、人員が不足してしまふ。その中で、入浴、送迎等で事業所から人員が減ると人員不足となり事故やヒヤリに繋がるリスクが生じるので、入浴や送迎等の時間をずらす等の工夫を行う
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	2	・バリアフリー化されている箇所はあるが、玄関や廊下は狭く感じる ・子ども達への環境の理解に繋がる整備は弱い ・情報伝達の配慮は不明	・玄関は両側のドアを開くことで玄関の広さの課題は解決可能、今後は広さを確保していく。廊下はチャイルドシート等が置かれている事で狭く感じる。物品の整理整頓を行い、広さを確保していく。 ・子ども達への環境理解に繋がるよう、部屋の区別を音（扇給等）を使う
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10	2	・天井の照明はオシャレなデザインだが、こまめに掃除をしないと埃が溜まりやすい形となっている。 ・ロールカーテンは防火管理上の機能となっているが、カビが生えやすい。 ・屋外の道路が砂利が多く、バギーが移動し辛いので整備が必要と思う	・災害時を想定し、天井の照明は強度の確認を行い安全を確保する。 ・定期的に天井の照明の清掃を行い、清潔で心地よい環境作りを行っていく。 ・ロールカーテンは防火管理上の機能確認をし、他で代用できるようであれば替え、清潔な環境設定を
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10	2	・放課後デイの利用児の来所までは、児童数が少ないので様々な使用ができる	・今後も用途に応じて、環境を設定していく。 ・療育の内容理解に繋げる為にも、事前に子ども達へ部屋の移動や空間の説明を行い、認知力の向上を図る
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	4	・1月に1回は事業所の計画の振り返りを行えているが、振り返りの結果を十分に活かしていない。 ・振り返りに参加出来ている職員に限られている。	・振り返りの内容を議事録として残し、隙間時間に見直し出来るよう、議事録を活用する ・振り返りに参加が難しい職員は必ず議事録を確認してもらおう等のルールを決める
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		・毎年の事業所評価で保護者の意見は吸い上げ出来ている。 ・事業所評価の結果を次年度の運営に十分には活かしていない	・保護者の意見の吸い上げは継続し、今後は自己評価を基に事業所の質の向上を図る
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		・事業所で1週間に1回はmtgを行い、職員の困り感の吸い上げを行っている。 ・不定期ではあるが、職員面談実施、職員から挙がった意見の改善を行っている	・事業所MTGは継続し、職員の困り感や課題の吸い上げは継続。今後は回数を増やし、職員の離職防止、働きやすい環境作りを行う
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12		・定期的に関わりのある外部からの意見は貰えている	・今後も継続、業務の効率化や改善につな
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		・外部講師の研修には定期的に参加できている。 ・法人全体の勉強会の開催、参加し職員の質向上に努めている	・今後も継続。
適切な支	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		・児童の特性を分析し、適切なプログラムの作成、公表を行っている	・今後も継続。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		・個々の特性や生活環境を踏まえ、保護者の想いや課題を各専門職で話あい、児童発達支援計画書の作成をしている	・今後も継続。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		・各専門職と児童発達管理責任者で定期的な評価の時間を設けている。各々の時間の調整が可能な日時で行っているため、全員参加が難しい時は事前に意見を貰っている	・今後も継続しながら、更に多くの職員が参加できるよう日程の調整を行っている。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9	3	・児童発達支援計画書は意見を出し合っているが、最終の計画内容が周知されない時がある。	・変更した内容は全体に周知し、支援を行っていく。全体周知の手段は検討し共有漏れを防ぐ。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認している	9	3	・重度身体障害児童に合ったアセスメントツールが無いが、日々の行動や状態を観察している	・適切なアセスメントツールが無いので、今後も日々の観察を行い、事業所で情報共有を密に実施していく
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されてい	12		・必要な項目の設定は行っているが、項目について、共通認識が持っているかは確認出来ずに進めてきた。	・今後も必要項目の設定は継続しながら、支援内容を設定していく。項目の確認を行いながら、支援内容を深堀し、事業所全体で支援の質向上に務める

へ 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12		・チームで話し合いを行い、外部との交流を含め支援プログラムを立てている。 ・活動の役割を分担し、支援を行っている	・今後も継続。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12		・様々な活動を立て固定化を防いでいる ・1月に数回は外部との交流を行い、地域交流を実施	・今後も継続。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12		・専門職と連携し専門職による個別時間と地域の保育園と交流することで集団活動の時間を確保。	・今後も継続。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12		・毎朝関係機関と合同の朝礼を行っている。その日の職員の予定、児童の情報等を共有することで事故、ヒヤリの防止や支援の質向上	・今後も継続。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	2	・職員全員で集まる事が難しいため、気付いたことや保護者への申し送り等は口頭で行っている。 ・気になる事はラインや記録で共有している	・終礼の時間を確保することは難しいので、記録や事業所のグループラインの活用は継続。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12		・支援記録は毎日とる事は徹底出来ている。とった記録は明朝の朝礼で共有し、休んでいた職員に対して情報共有漏れが無いように務	・今後も継続。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12		・定期的に評価を行い、目標の見直し、再設定を行うことはできている	・今後も継続。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		・参加し、事業所での様子等意見を伝える	・今後も継続。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12		・定期的に地域の保育園や障害福祉施設と連携し、支援に繋げている	・今後も継続。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		・支援学校の幼稚園と交流を行いながら、児童の情報共有、児童の相互理解に繋げた。 ・保育所との交流については、振り返りを行い、交流の目的や課題について	・今後も継続。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		・支援学校の幼稚園と交流を行いながら、情報の共有、児童の相互理解に繋げた。就学に向けて、相談員と連携し会議を持つ等相互理解を図っている。	・今後も継続。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	12		・地域の児童発達支援センターの所在が不明。スーパーバイズや助言等を受ける機会は無し	・支援センターの所在が不明なので、確認を行う。スーパーバイズからの助言おを受ける機会はないが同法人の専門職からアドバイスを貰う機会を増やし、職員の質の向上に務める
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	12		・近隣の保育園の誕生会に参加したり、不定期ではあるが、支援学校の幼稚園と交流、活動ができている	・今後も継続。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12		・お迎え時に保護者と利用時の様子や課題、家族の困り感を吸い上げる事は出来ている	・今後も継続。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	4	・年に数回、ベアトレの案内を行っているが、参加率は低い。1月に1回来島する外部のリハビリ講師の個別相談やリハビリの案内も行っているが、ベアトレ同様に参加率が低い	・職員向けの研修以外で保護者向け研修や個別相談会の案内を行い、家族の対応力を向上に務める。	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12		・契約時に運営規定や負担額等については説明を行っている。支援プログラムについては、丁寧に説明はできていない。	・契約時に支援プログラムの説明も併せて行う。プログラムの内容の目的やねらいも丁寧に説明を行う	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12		・担当者会議や面談等で意思の確認、書面での家族の想いや生活環境、困り感を確認出来ている	・今後も継続。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12		・支援計画書の変更が生じた際は、迅速に計画書を作成し、保護者の同意を得て支援を開始している	・今後も継続。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12		・お迎え時に保護者から上がった相談事は事業所へ持ち帰り、事業所職員で話し合いを持ち解決策やアドバイスを行っている。また、事業所で解決できない事案や相談内容によっては、関係機関に相談し対応	・今後も継続。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	4	・夏の海イベントは職員が常時サポートに入る等、ご家族やきょうだいが楽しく参加出来るよう計画立てを行い実施することで、参加率が上がったが、保護者会の開催は出来ず、父母が気軽に話が出る機会の提供は未実施。	・家族参加型のイベントは今後も継続。保護者交流会を開催し、保護者支援を行う
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12		・相談窓口の案内は契約時に保護者へは周知している。 ・虐待や身体拘束等に関しては、会社の役員で構成された委員会があり、虐待、身体拘束等が起こった時の窓口も契約時に保護者へ周知している。	・今後も継続。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12		・今年度からInstagramを使用し、日々の活動を発信しているが、発信回数と曜日が不定期	・SNSの発信曜日を決め、保護者へ再度周知し、事業所の取り組みを見てもらう。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12		・情報の取り扱いには、契約時に保護者に確認を行う等、注意を払いながら管理を行っている。SNS等で発信する際も保護者の意向を踏まえ、取り扱いには気を付けている	・今後も継続。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12		・連絡帳を使用し、意思疎通や情報伝達を行っている。連絡帳で記載が不十分な内容等に関しては、直接話す等の対応を	・今後も継続。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	10	2	・夏は祭りを開催し地域の方を招待、ハロウィーン等のイベントは地域の方の協力を得て事業所の運営を行っている。また、地域のイベントへ活動の一員として参加出来た。地域交流は回数が少ない。 ・緊急マニュアル、感染症マニュアル等のマニュアルは作成し、職員やご家族に周知、ご家族と内容については話をすり合わせを行っている。シュミレーションも実施、事業所で振り返りを行い意見を出し合う事がより良い対策につながった。	・イベント開催は今後も継続。地域のイベントへも感染症に気を付けながら参加していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	12		・BCPは策定できたが、実際の災害を想定しての避難訓練後のBCPの見直しまでは実施できていない	・今後も継続。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12		・利用前の保護者面談時に、児童の情報を収集、お薬手帳や母子手帳で服薬や予防接種、支援する際の留意点を確認して	・今後も継続。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12		・経口摂取の児童は少数で、食形態については指示書に記載されている指示に従い、提供している。アレルギーのある児	・今後も継続。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12		・定期的に研修動画を視聴し、現場で実際のシュミレーションを実施出来ている	・今後も継続。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12		・安全計画に基づき、訓練を実施している。訓練日は保護者へ報告する等取り組みについては周知できている	・今後も継続。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12		・ヒヤリハット、事故に関しては迅速に事業所で周知、再発防止の対策の意見を集め対策を行っている。対策を実施する中で、不十分と感じた時は再度検討し、事業所全体に周知し、再発防止に務めている	・今後も継続。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12		・職員全員の年2回の虐待、身体拘束の研修の必須受講や新人研修の内容に虐待、身体拘束の研修受講を組み込み防止	・今後も継続。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12		・身体拘束の3条件を伝え、やむを得ない場合は保護者へ相談、安全を優先している。常時、身体拘束を行う児童はいない為、計画書には記載していない。	・今後も継続。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12				